

ロイヤルエンフィールドジャパン
(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)
2025 年 11 月 7 日
PCI-RE2025027

ロイヤルエンフィールド、 ヨコハマ ホット ロッド カスタム ショー2025 に出展



東京、2025 年 11 月：中型モーターサイクルセグメントのグローバルリーダーであるロイヤルエンフィールドは、12 月 7 日（日）にパシフィコ横浜で開催される日本最大級のカスタムカーおよびカスタムバイクのイベント「33rd Annual YOKOHAMA HOT ROD CUSTOM SHOW 2025(第 33 回ヨコハマホット ロッド カスタム ショー2025)」に出展します。

ロイヤルエンフィールドは、2012 年／2018 年／2022 年のヨコハマ ホット ロッド カスタム ショーで二輪部門の最優秀賞を獲得した CUSTOM WORKS ZON（カスタムワークス・ゾン）が製作する、CLASSIC 650(クラシック・ロクゴーマル)ベースのカスタムバイクを世界初公開します。

またロイヤルエンフィールドの公式カスタムプログラム「Custom World(カスタム・ワールド)」では、世界各地で活躍するカスタムバイクビルダーとのコラボレーションし、数多くのカスタムバイクを発表しています。そのなかから、SHOTGUN 650 をベースにした 2 台のカスタムバイクと、昨年のヨコハマ ホット ロッド カスタム ショーで世界初公開した、SURESHOT(シュアショット)が製作したカスタムバイク「SAMURAI(サムライ)」も展示します。

さらにロイヤルエンフィールドは CHEETAH CUSTOM CYCLE(チーター・カスタムサイクル)ともコラボレーション。インドや欧州で展開するネイキッドロードスポーツモデル GRR 450(ジーアールアール・ヨンゴーマル)をベースにした2台のカスタムバイクを、ホット ロッド カスタム ショー2025 で発表。その翌日 12 月 8 日(月)に埼玉県川越市のオフロードビレッジで開催される、フラットトラックとヴィンテージモトクロスイベント「HELL FUN(ヘル・ファン)」にて、2 台のカスタムバイクを走らせます。※GRR 450(ジーアールアール・ヨンゴーマル)の日本市場への導入は、現時点では未定です

【開催概要】

■イベント名称：第 33 回ヨコハマ ホット ロッド カスタム ショー2025

(<https://yokohamahotrodcustomshow.com>)

■開催日時 : 2025 年 12 月 7 日 (日)

■開催場所 : パシフィコ横浜

神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1 (<https://www.pacifico.co.jp>)

■チケット : 前売り 4,400 円/当日 5,500 円(小学生以下無料)

チケット詳細 (<https://yokohamahotrodcustomshow.com/ticket-2025/>)

■イベント名称：HELL FUN (<https://www.instagram.com/p/DQA7qAaCMgT/>)

■開催日時 : 2025 年 12 月 8 日 (月)

■開催場所 : オフロードビレッジ

埼玉県川越市東本宿 (<http://www.westpoint.co.jp/offroadvillage/>)

【展示予定車／ロイヤルエンフィールド・ブース】

< CUSTOM WORKS ZON from Japan >

吉澤雄一(よしざわ・ゆういち)と植田良和(うへだ・よしかず)により、2003 年、滋賀県に設立。以来、高いデザイン力と車両製作技術によって、個性的なカスタムバイクを数多く発表しています。それらの車両を世界中のショーに出展し、数多くの賞を獲得しているほか、欧州や北米の二輪メーカーとのカスタムプロジェクトや、アパレルブランドとのコラボレーションにも参加する、日本を代表するカスタムバイクビルダーです。



<KINGSTON CUSTOM from Germany>

ベースマシンは SHOTGUN 650。「The Kingsman(ザ・キングスマン)」と名付けられたこのカスタムバイクを製作したのは、ドイツを拠点に活動するキングストンカスタムです。デザイナーであり、カスタムバイクビルダーである Dirk Oehlerking(ディレク・オーラーキング) は、2mm 厚のアルミ鋼板を板金加工で成形し、全長約 4m のストリームライナースタイルに仕上げました。もちろんこの車両は実走可能です。映画『キングスマン』の世界観を体現するため、紳士の嗜みに欠かせないアイテムがリア周りの特製ボックス内に収められています。



<ROUGH CRAFTS from Taiwan>

ラフクラフツは、高品質のアルミ削り出しパーツやカーボン製パーツを世界中で展開するパーツブランドであると同時に、それらのパーツをふんだんに使いながら、ミニマムなデザインにスピード感をミックスした、個性的なカスタムバイクを製作するカスタムファクトリーとして知られています。ヨコハマホットロッドカスタムショーに展示する車両は、SHOTGUN 650 をベースにした最新作。EICMA2025 のロイヤルエンフィールド・ブースで発表した「Caliber Royale(キャリバー・ロイヤル)」です。



<SURESHOT from Japan>

ベースマシンは SHOTGUN 650。「SAMURAI」と名付け、昨年のヨコハマ ホット ロッド カスタム ショーで世界初公開したカスタムバイクです。車両を製作したのは「シュアショット」。フレームやフロント・インボードディスクブレーキ、スイングアームやリア・モノショックシステムはシュアショット独自の設計によるもの。エンジンは S&S 製キットパーツを使用し 865cc までボアアップしています。今年の春に海を渡り、英国、フランス、ドイツなどのカスタムバイクイベントに展示されたほか、グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピードにも参加。The Hillclimb を走りました。



【展示予定車／HAVE FUN ブース】

<CHEETAH CUSTOM CYCLE from Japan>

CHEETAH CUSTOM CYCLE(チーター・カスタムサイクル)は、大沢俊之(おおさわとしゆき)のソロプロジェクトであり、カスタムバイク製作のほか彫金や立体造形、グラフィックデザインなどさまざまな創作活動を行っています。またフラットトラックチーム「HAVE FUN」の中心メンバーであり、カスタムバイクシーンとフラットトラックシーンを繋げる活動も行っています。今回展示する車両は、GRR450 をベースにロイヤルエンフィールドのキットパーツを組み込み、ロイヤルエンフィールドが世界中で展開するフラットトラックスクール／Slide School(スライド・スクール)の練習車「FT450」と、GRR450 をベースに大沢氏がフルカスタムした特別車両です。ショー翌日に埼玉県川越市のオフロードビレッジで開催するイベント「HELL FUN」では、大沢氏と HAVE FUN のメンバーが、その2台の車両をフラットトラックコースで走らせます。

**CHEETAH
CUSTOM CYCLES**

*Have
Fun!!*
ALWAYS FLAT TRACK



GRR 450(Guerrilla 450)



FT 450

<CLASSIC 650 について>

ロイヤルエンフィールドの新型車「CLASSIC 650(クラシック・ロクゴーマル)」は、2025 年 9 月 1 日より、日本全国のロイヤルエンフィールド正規販売店で受注がスタート。CLASSIC シリーズの伝統的な特徴を受け継ぎ、熟成を重ねた排気量 649cc 並列 2 気筒エンジンを搭載した CLASSIC シリーズのフラッグシップモデルです。

- ・「CLASSIC 650」製品情報 <https://www.royalenfield.co.jp/lineup/classic650/>



<ロイヤルエンフィールドについて>

1901年の創業以来、ロイヤルエンフィールドは美しいオートバイを作り続けてきた二輪車ブランドです。そのルーツは英国にあり、1955年にマドラス(現チェンナイ)に製造工場を設立。以来ロイヤルエンフィールドは、インドのミッドサイズ・モーターサイクルセグメントの成長を牽引してきました。ロイヤルエンフィールドのモーターサイクルは、美しく、シンプルで親しみやすく、ライディングする楽しさに溢れた乗り物である。それは我々ロイヤルエンフィールドが、自らを『Pure Motorcycling／ピュア・モーターサイクリング』と呼ぶ由縁です。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、クルーザーの「METEOR 350(メテオ・サンゴーマル)」、650 パラレルツインモーターサイクルの「CLASSIC 650(クラシック・ロクゴーマル)」「SUPER METEOR 650(スーパー・メテオ・ロクゴーマル)」、「INT650(アイエヌティ・ロクゴーマル)」、「CONTINENTAL GT650(コンチネンタル・ジーティー・ロクゴーマル)」、アドベンチャー・モーターサイクルでは「HIMALAYAN 450(ヒマラヤ・ヨンゴーマル)」、アイコンックな「GOAN CLASSIC 350(ゴアンクラシック・サンゴーマル)」「BULLET 350(ブリット・サンゴーマル)」、「CLASSIC 350(クラシック・サンゴーマル)」があります。また我々は2024年に、新しいシティ&電動モーターサイクルブランド『FLYING FLEA(フライング・フリー)』を発表しました。それはモダンなデザインと先進技術を融合させた、都市型モビリティカテゴリーにおける我々の新たなチャレンジでもあります。

また我々ロイヤルエンフィールドは、世界各地でモーターサイクルイベントを企画しています。とくに、毎年11月にインド西海岸のリゾート地ゴアの美しいビーチに、世界中からロイヤルエンフィールド・ライダーが集まるイベント「Motoverse(モトバース)」や、ヒマラヤ山脈の高地を走る「Himalayan Odyssey(ヒマラヤン・オデッセイ)」が有名です。また世界中の人々がロイヤルエンフィールドを走らせる世界同日開催のライディングイベント「One Ride(ワンライド)」も実施しています。

インドのトラック大手 Eicher Motors Limited(アイシャーモーターズ・リミテッド)の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に2000以上の店舗を構え、世界60カ国以上に850近い店舗を展開しています。また、ロイヤルエンフィールドは、英国のブランディングソーブとインドのチェンナイに2つのテクニカルセンターを有し、インドの都市チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに2つの最新鋭の生産施設を運用しているほか、バングラデシュ、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの6ヶ所に近代的なCKD(コンプリート・ノック・ダウン)組立工場も有しています。

ロイヤルエンフィールドのブランドや製品に関する詳細は下記公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.royalfield.co.jp>

全国のROYAL ENFIELD 正規販売店は下記よりご確認いただけます。

<https://www.royalfield.co.jp/dealers/>

本件に関するお問い合わせ先：ロイヤルエンフィールドジャパン(総輸入発売元:ピーシーアイ株式会社)

<https://www.royalfield.co.jp>